

大阪ワインの生産拡大に向けて ～大阪府における醸造用ブドウ研究の取り組み～

食と農の研究部 葡萄グループ

■事業の概要

ワインのラベル表示改正によって、大阪ワインを名乗るためには大阪府内での収穫や醸造が条件となる。そこで、大阪府内の醸造用ブドウ生産拡大に向けた取り組みを開始した。

■事業の目的・特徴

- ・大阪府内での醸造用ブドウ生産拡大のための栽培技術の開発
- ・大阪の伝統や歴史、土地柄など特色を活かした醸造用ブドウの開発

■想定される用途

大阪府内のワイナリーおよび用途拡大を目指すブドウ生産農家への栽培技術支援、開発品種の提供

■事業(調査研究)の内容

大阪特産‘デラウェア’の醸造用栽培方法確立に向けた取り組み

◆大阪における‘デラウェア’

大阪は全国3位の‘デラウェア’産地です。生食用に比べて管理を省力化できるため、醸造仕向が増えています。



◆醸造用としての‘デラウェア’の可能性

醸造用‘デラウェア’としての収穫時期や収量とワインの出来栄えの関係、より省力的な栽培方法の開発などに取り組んでいます。



成熟ステージ別の‘デラウェア’

大阪伝統ブドウ‘紫’の復活を目指した取り組み

◆‘紫’とは・・・

豊臣秀吉の時代に朝鮮半島から導入されたといわれています(諸説あり)。
‘甲州’とよく似たブドウでDNA鑑定でも違いが判らないほどですが、栽培してみると外観が異なります。



◆ウイルスフリー化の取り組み

‘紫’の当所保存樹はウイルスに感染していることが判明。茎頂培養によるウイルスフリー化が極めて困難なため、自家交配実生から優良系統を選抜する取り組みを進めています。



‘紫’の茎頂培養個体



‘紫’の自家交配実生の葉



大阪における醸造用ブドウ品種の栽培適応性試験

◆大阪の気候・土壌に適した醸造用ブドウ品種の選抜

高温でも着色しやすい品種の選抜などを行っています。

◆オリジナル醸造用ブドウ品種の育成

ワイナリーや大学と連携しながら新品種の育成を行っています。

◆大阪の醸造用ブドウ園の土壌実態調査

大阪府内の醸造用ブドウ園の土壌の物理性・理化学性とブドウの品質を調査しています。



新設した垣根ほ場